

取材先	盲導犬ボランティア・エールの会		
企画名	教育振興会 講演会		
備考			
取材日	2019年11月16日(土)天候[晴れ] [ 10:00~11:45 ]	取材地	下関市立吉母小学校 体育館

レポート

今回の講演は、全校生徒8名の吉母小学校で行われ、PTAや地域の方々約50名の参加でした。講師は、高松瑞枝さんと盲導犬ユキ号です。隣では、ご主人が見守っていました。

訓練し盲導犬になれるのは10頭中3~4頭で、盲導犬になれない場合はペットか他の介助犬となります。10歳でリタイアとなり、ボランティアに引き取られペットとして余生を過ごします。

講師の高松さんは、途中で目がだんだん見えなくなった方で、障害を受け入れられず白杖を使うことにも抵抗があったそうです。慣れない白杖を使っていて人の足に当たり蹴り飛ばされたこともあったそうです。外出はご主人に手引き歩行で連れていってもらっていたそうですが、ご主人のスケジュールに合わせないと出られない、行きたいときに出不ることもあり、だんだん引きこもりになって心の病気になる、部屋の隅に座ったままになっていったそうです。盲導犬が来てからは、外出が増え人生が変わり、最近では広島まで盲導犬と一緒にやってきたそうです。人に道を聞き、人の親切にふれながらホテルまで無事に着けたそうです。

話の終わりに、4つのお願いをされました。①盲導犬の名前を呼ばない②勝手に触らない③目をじっと見ない④食べ物は与えないです。ユキ号は2頭目ですが、1頭目がリタイアをしたとき、訓練士から「いい盲導犬にさせていただきました」と言ってもらえたそうです。体重など管理が大変で、トラブルで途中で引退してしまう場合もあるそうです。

現在盲導犬は、多重障害にも対応できるよう枠が広がってきています。私たちにできることはありますか、と聞いたところ、盲導犬を連れていて困っている様子を見かけたら声をかけてほしいと言われました。私たちも心がけていきたいですね。



状況写真

